

# ぎやらりー わ

NO.70

2015年4月号



●クリスマスローズ  
(木村成男撮影)

編集・発行 NPO法人グループわ(堺 汎) ホームページ <http://www.wa-net.jp>  
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL.078-743-8101 FAX743-3830



さくらの苗木の水やりがスタート



水やりスタート

## 爛漫のさくら夢見て

♪さくら さくら やよいの空は——。爛漫の桜を夢見て、3月31日(火曜日)、北区会(土井昭政代表)の有志3人(写真④左から)北山悦子(食14)・淡路忠義(福5)・佐伯義昭(国8)さんが、一昨年、カレッジ前庭に植えた、開校20周年記念のさくらの苗木24本に水やりをしました。苗木は背丈が3メートル近くに伸び、順調に育っています。今年も、有志4人(上記の3人の他、中須賀毅(福16)さん)がチームを組んで、季節に応じ週1~2回の水やりを実施する予定。この日は、ちらほら咲きで、世話にあたっている淡路さんは「少し寂しい気がするが、10年後には、見事に咲くでしょう」と話していました。(取材・写真=広報 永野知己)



ボランティアの  
輪をひろげよう

70  
年の  
歴史

座談会

わの明日を語ろう

2~3面

東北支援	4面	ボランティアの心(海野)	8面
功労表彰者決まる	5面	カレッジだより	9面
ボラ最前線(マジック)	6面	イベント予定	10面
連載「介護保険」最終回	7面	WAからのお知らせ	11面

「わ」総会  
5月23日に  
変更

# 座談会 <わ> の明日を語ろう

グループ〈わ〉は誕生から18年を迎えます。会員数1,360人と大きな組織に成長しましたが、会員の高齢化や世代間意識の相違もあって、活動が複雑になってきています。NPOとして何を目指していくのか？ どういった組織にしていってよいか？ 〈わ〉のあり方が問われる時期にきています。そこで区会、部会、本部などの代表7人に、日頃活動する中で感じていることを、ざっくばらんに語っていただきました。

出席者

久保正志（中央区会長・国14） 土井昭政（北区会長・国10） 馬場偉夫（木工グループ代表・福16）  
 榎矢勝行（むかしあそび研究会副会長・生12） 菅田忠志（花実の森整備プロジェクト代表・生11）  
 堺 汎（理事長・園15） 水町亮治（理事・生18） ◆司会 広報・永野知己（敬称略）

（写真は左④から氏名順に）



## 地域で、特技を生かして

**司会永野** 〈わ〉でどんな活動をしていますか

**久保** 地域の高齢者・障害者施設での生活支援や、書道、マジックで施設訪問するなど、区会活動を中心に行っています。

**榎矢** 本部主催のイベントや小学校、児童館で、子どもたちにむかしあそびを教え、ふれあいを楽しんでいます。

**菅田** 県の助成を受け「花実の森プロジェクト」を担当。3月末で5年の指定期間が終了しますが、引き続き、小学生を対象に自然体験学習の受け入れをして行く予定です。

**馬場** 区会の運営委員と木工グループで、工作塾など本部主催のイベントに参加。木工作品の制作、修理、販売も行っています。

**土井** 北区会、国際部会の運営委員として活動する他、小学校の特別支援や車椅子テニス大会の実行委員をしています。

**水町** 児童館での「紙すき教室」「ケナフ染め」など、子どもたちと一緒に楽しく活動。本部では総務を担当しています。

**堺** 本部役員として、会員の皆さんが楽しく活動できるよう目配り、気配り、心配りをして、組織が円滑に進むよう努めています。

## 子どもの笑顔に喜びを

**司会** 活動する中で楽しいこと、嬉しいことは

**馬場** 子どもの笑顔と「おじちゃんありがとう」の言葉が最大の喜びであり、作品作りを通して、木工

の楽しみを子どもたちに伝えたい。

**土井** 何と言っても、嬉しいのは子どもの笑顔。励みにも繋がりますね。（一同うなづく）

**菅田** それに加えて、活動を通じて自然と接することができて楽しい。

**久保** 私も、利用者の笑顔と拍手に、また頑張ろうと元気が湧いてきます。

## 高齢化と活動場所の確保

**司会** 困っていることや悩みはありますか

**菅田** 若手男性の入会者が少ないこと。リーダーの交代がスムーズに運ぶか、不安です。

**土井** そうですね。会員の高齢化と区会長の引き受け手がなく交代できません。

**久保** 中央は46人中18人が区会に参加しており特に問題はないのですが、パソコンを持っていない会員への連絡方法が悩みです。費用をかけずに行うには？

**馬場** 西区会はメールとFAXの他、一部自宅へも配達しています。

**榎矢** むかしあそびは、現役と一緒に活動。会員数200人、毎月の研修会への参加者60人と組織として問題はありますが、技能研修が中々追いつかず、全てをこなせる人が少なくなっています。

**馬場** 木工も現役と一緒に活動しているので、一体感があり〈わ〉への加入率も高い。ただ、活動依頼が減少傾向にあり、活動の場と作品の販売先の確保が課題です。

**土井** 本部は活動の場を提供できるよう、各サークルの動きを把握しておく必要があるのでは？

## 再び学んで…」の徹底を

**司会** その打開策はありますか

**樋矢** 依頼者の期待に応えられるよう人材育成に力を注ぎたい。

**馬場** 本部とも連携して、活動の場、販売先を広げる努力を。各区のボラセン等で情報収集と広報活動を、部員の声を聞きながら進めていきたい。

**菅田** メンバー募集も必要だが、「G学習の延長」として若いグループに活動を継続してもらう努力も大切。〈わ〉の戦力UPや組織の活性化になる。

**土井** カレッジは「再び学んで…」を学生に徹底して欲しい。

**久保** 同感。学生には、入学当初に指導が必要だと感じています。

## 新たな事業を展開

**司会** 助成金の打ち切りで〈わ〉も資金的に苦しい状況ですが、今後どんな活動を

**堺** 時代の流れを見極めながら、①友好団体と協働、②カレッジと協力、③会員間の交流を図る。具体的策として、社協や行政等と連携し高齢者に適した事業や、子ども対象の教育講座を広げたいと考えています。

**水町** 私も、行政や企業の福祉事業部門に働きかけ、共催できるものを探してはと思っています。

**菅田** ボランティアは、求めている側の思いと我々の思いが合致しないこともあり、その辺が難しい。それに、〈わ〉の認知度は上がってきたようだが、高齢化は体力減退も伴うので、実力の物差しを読み違えないようすることも本部の役割だと。

**樋矢** そうですね。むかしあそびは、子ども相手に限定しています。本部は、サークルそれぞれの力や特色を、把握しておいて欲しいですね。

**馬場** 資金不足であれば、収益事業の展開も検討しては？私案ですが、木工では生協が始めた高齢者支援サービス（網戸張替、手すりの取り付け）のようなことも検討したいと思っています。

**久保** 私も興行部を作っては？と。部会には興行に向くサークルが多数あると思いますが…非営利組織に反しますか？

**堺** 商売にするには難しい課題でしょうね。

## 物産販売を拡充

**司会** 東北支援の今後は

**水町** これまでの実績を踏まえて自費参加者を募っては？東北物産は学園祭やボラセン大会でも実施してはどうか。

**全員** 物産販売を広げることは大賛成。

**土井** 東北はこの辺で引いてはどうか。

**馬場** 生活復興に変わってきているので、現地で

は何か必要なのか調査しては。観光支援を広げていけるよう、現役生にもポスター等で呼びかけてはどうでしょう。

**久保** 派遣人数を少なくするなど、資金がかからないような形での継続が望ましい。

**樋矢** お互いが喜べるような支援を。年数に応じた対応は必要でしょうね。

**菅田** 今、考えついたのでが個人同士の文通はどうだろうか。形あるボランティアとは異なった、心が通う支援になるのでは。派遣経費もかからないし。

## 明日に向かって

**司会** 問題点と課題は何でしょう

**土井** 新規入会者も含め、会員の高齢化が顕著となっている。このため、ボランティアの要請がきても引き受け手がなく、区会長の交代もできないのが現状。区会長は任期制が望ましい。

**馬場** 高齢化による会員の脱退と新規入会者の減少により、区会内のブロックの統合が必要となっている。イベントを開催しても参加者は役員が中心。ブロック内の懇親会も参加がありません。

**久保** 中央は今のところ大丈夫ですが、80歳を超える区会長もいるので、任期制にするなどの方策が必要では？区会長同士の話し合いの場が欲しい。

**馬場** 新たな資金源が見つからない場合は、①会費の値上げ、②区会、部会の運営助成金の減額、③ぎゃらりの電子化、④サポート募金の依頼は区会、部会を通じて見える形で実施、⑤〈わ〉独自のイベント活動の新規開拓を検討。合わせて、新規入会者募集は、様々なチャンネルを通じて、より一層努力することが大切ではないでしょうか。

**堺** 会員の高齢化などいくつかの問題点と課題について今、本部で話し合いを進めています。年度内には提言が出される予定です。

## 【座談会を終えて】

区会や部会の現状はどうか、本部の役割は何か、効率的な運営をするにはどうしたらよいか…2月13日、「〈わ〉の明日を語ろう」をテーマに開いた座談会は、難しいテーマにもかかわらず、議論は百出。多くの課題や問題点が浮かびあがりました。背景には高齢化やボランティア活動に対する意識の変化があるようです。すぐには解決に結びつかないものもありますが、話し合いを重ねれば、〈わ〉の将来も拓けるのではないかと感じました。（まとめ 広報・井口久美子）

# 第6次チーム、7月に仙台・女川へ

グループ〈わ〉は7月初旬に東北へ第6次チームを派遣します。東北でボランティア活動を始めて5年。カレッジ関係者のご協力が続けてこられた交流事業も、今回で一応の区切りをしたいと考えています。3月6日には、プラン作りを担当するプロジェクトチームをスタートさせ、準備に入りました。好評だった手料理の交流会など、現地の要望を生かした内容を検討中です。（東北プロジェクト・南形徹）

## 昔遊びや料理で交流

訪問地は仙台・東六郷小学校、荒井仮設住宅、女川・第一、第四保育所、運動公園復興住宅、名取・閑上小学校など。時期は7月2日(木)～6日(月)の4泊5日を予定しています。活動内容は、昔遊び、マジック、民謡や歌、手料理交流会、ディスコン大会、阪神と東北大震災の体験発表など。メンバーは7～9人程度(数人は4月中旬に学内公募)。

福祉振興協会とは第1次派遣時から連携していますが、第6次は全日程を通して協働で活動しようと話し合いを進めています。協会は音楽チーム、大道芸、体操を中心にプランを組みます。

メンバーは5月初めまでには決定。料理や昔遊びのリハーサルを行うほか、現地社協、自治会との打ち合わせをします。学校関係の訪問先はカリキュラムの関係があり、交渉を急いでいます。

【第6次プロジェクトチーム】堺汎、小畑浩昭、海野龍英、井口久美子、永野知己、南形徹(わ本部)、増金スミ子(福11)、大澤貞男(生13)、波多野武郎(食16)、橋野美子(一般)



## 女川へ英ウィリアム王子

復興が進む女川町でJRの新駅が完成、3月21日に須田善明町長や住民が参加して「まちびらき」が行われました。1日には来日中の英ウィリアム王子が訪れ、須田町長ともにこやかに懇談。町は歓迎ムードに包まれました(写真=女川町提供)。須田町長は1月に〈わ〉の招きでカレッジを訪れ、復興の現状について講演しています。

## サポート募金のお願い

阪神・淡路大震災から20年が経ち、当時の赤ん坊は成人式を迎えて震災の記憶も忘れられようとしています。一方で5年目を迎えた東日本大震災は、まだまだ復興のリズムに乗れていません。7月には第6次隊を東北へ派遣しますが、今後はこれまでの支援活動から、現地との絆を生かした交流活動へと切り替えてゆきたいと考えています。

グループ〈わ〉が続けてきた東北への支援活動に対し、この3月30日には「ひょうご安全の日推進県民会議」から感謝状が授与されました。2013年の厚労大臣感謝状につづく荣誉で、これも会員の方のご協力のお蔭だと感謝しています。今後もこうした活動を続けたいと思っておりますので、引き続きサポート募金へのご賛同をよろしくお願い申し上げます。 理事長・堺 汎

## 東北感想文集 第4集刊行

グループ〈わ〉は、東北支援チームの体験報告・第4集を3月に刊行しました。A5判64ページ。1次～5次メンバー43人の感想文集で、震災の現場に立ち、ボランティアとして活動した皆さんのナマの声が続けられており、〈わ〉の東北支援活動を語り継ぐ資料になれば、との思いが込められています。関係者に配布するほか、振興協会、図書室などに寄贈します。

### サポート募金のご報告 (1月8日～3月31日分・敬称略)

形部康子(福10) 3千円、募金箱670円、脇田幸子(生16) 千円、石谷完(生13) 千円、古川孝友(生12) 千円、芝崎怜(国17) 千円、太田治彦(生17) 千円、浅貝弘行(生18) 千円、涌井岑治(生9) 千円、宮田幸長(美17) 500円、野鳥と自然観察会(1万円)、待鳥孝夫(生13) 5千円、尾川一(生2) 1500円、横井幸雄(福11) 5千円、大正琴プリムラ1万円、村岡孝(音13) 2千円、筒井ちなみ(音17) 5千円、波多野武郎(食16) 5千円、迫田純夫(国10) 2千円、生環19期一同1,656円合計58,326円。

# 功労賞に1人・2団体決まる

グループ〈わ〉の27年度功労賞は、4月7日の理事会で、別表のとおり個人1人団体2グループに決まりました。5月23日の〈わ〉の総会で表彰式が行われます。 (広報・井口久美子)

## 【功労会員】

児玉浄(生1) = コーラスで慰問活動11年

## 【功労グループ】

広陵パソコン教室 = 地域でパソコン指導

kSC民謡クラブ = 民謡で施設訪問12年。

区会・部会・個人から推薦のあった会員1人、団体グループを対象に、3月24日にあった運営委員会で選考。活動歴や活動内容の審査を経て、4月7日の理事会で正式に決まったものです。有権者は、理事・区会長・部会長ら36人で、うち病欠・棄権は2人。22年度から始まった表彰制度は今年で6回目。これで、個人16人、団体14グループが受賞したことになります。

## 施設訪問や地域でパソコン指導

【表彰会員・団体の活動内容】 (敬称略)

▼児玉浄(生1) = 水野俊夫推薦 = H11年、カレッジ卒業と同時に西区会を立ち上げ、9年間に亘って区会長・役員を務める。15年には、コーラスグルー

プ(コーロむつみ)を結成。趣味の社交ダンスの指導とともに、高齢者施設を中心に慰問活動を行っている。昨年は、10周年記念コンサートを西区民センターで開催し企画運営を担当。長年にわたる意欲溢れる活動は、区会員の範となっている。

▼広陵パソコン教室(代表・横井正昭、在籍9人) = 土井昭政推薦 = グループ設立7年。広陵地区パソコン教室開講を機に、区会活動として取り組む。メンバーの交代はあるものの、現役時代に培った技術と分かりやすい指導で、地域住民にも好評を得ている。これまでに、100人を超す人が終了しており、地域の役員会でもパソコンを使用するなど、成果が確実に表れてきている。

▼民謡クラブ(代表・待鳥孝夫、在籍58人) = 重松豊彦推薦 = H15年クラブ設立以来、12年間にわたり高齢者施設を中心に慰問活動を月1~2回、定期演奏会は、毎年開催している。また、東北支援チームの一員として参加するなど、幅広い活動を行っており、訪問先では、三味線、尺八などに合わせたの唄や踊りが好評で、演目も対象に応じて創意工夫を凝らしている。

## 総会は5月23日 午後は舞台発表

グループ〈わ〉は、27年度総会を5月23日(土)にカレッジホールで開催します。69号で、5月16日とご案内をしましたが、学校行事の関係で23日に変更になったものです。多くの皆様のご出席をお願いいたします。

午前10時から総会。功労会員の表彰式があり、昼食をはさんで、午後1時から文化部会・福祉部会の9サークル(わらい届け隊・KSC男声合唱団・kSC手話同好会・kSC民謡クラブ・SCハワイアンズ・SCクラブ大正琴・楽遊クラブ銀雅・明生園もみじ会・あんだんて)による舞台発表の後、最後にピンゴゲームを予定しています。どうぞお楽しみに…。総会資料は、「ぎゃらりーわ」4月号(70号)に同封しています。出欠のご返事は、昼食の弁当注文の関係で5月12日(火)までをお願いします。

## いなみの学園から来訪

いなみの学園・藤原理事と兵庫大・田端教授が、生涯学習の実態調査のため3月3日、〈わ〉を訪れ、堺理事長、南形監事、永野理事と懇談。

「いなみのでは、地域や社会へ還元しようとNPO団体設立を検討しているが、ボランティアへの関心が薄れており、入学者も減っている。〈わ〉の現状はどうですか」と田端教授らから質問があり、堺理事長は「こちらと同じような状況。ボランティア活動に熱心な会員は漸減。ポラ団体も会員の高齢化で解散が増えており、頭が痛い」と説明しました。

田端教授は、「1970年代は、学ぶだけで喜びと生きがいを感じていただけた。最近では戦後の民主教育が浸透し、権利意識は高いが、義務の方はもう一つ。学生へのアンケート調査を通じて、有効な提言をまとめたい」とのべ、今後も双方で意見交換をすることになりました。(広報・永野知己)

# チキンフライすごーい



KSCマジッククラブ

ボランティア最前線

「すごーい、わぁー」と歓声。拍手も鳴り止みません。KSC マジッククラブ(森田明朝代表・国8)は3月13日、神戸大附属病院のはとぼっぽ保育所でプロ級の技を披露しました。森田代表のほか、田中剛(園5)、三浦捷治(国10)、大澤貞男(生13)、南形公子(福13)、古後健一(福18)さんの計6人。経験10年以上のベテランぞろいです。

午前10時、開演。0歳から5歳の園児35人と保育士さんら10人が見守ります。絵本にマジナイを掛けるとミッキーや熊のプーさんが現れます。表紙を消しゴムでこするとページは真っ白に。次は白いハンカチを拳骨の中に押し込むと下から赤いハンカチが出て来ました。赤と白のハンカチを拳骨に押し込むと、あら不思議、赤白まだら模様に変ります。園児らは目をパチクリ。

今度は細長い筒と赤いボールを持ち出します。両方の筒に1個ずつボールを入れ、まじないを掛けると、ボールが片方の筒へ瞬間移動。さらに空である筈の円筒から、ハンカチ、リボン、リンゴ、人形、花が現れました。園児らは、またまた大喜び。

ト리는黒いステッキを持ち軽快にダンス。突然ステッキの中からハンカチが現れたかと思うと、一瞬でステッキが黒から赤に変化。ビックリしている

間にステッキが4色の風呂敷に変わります。間髪入れず、小さな唐傘が1つ2つと出現。度肝を抜かれた園児達の興奮は治まりません。1人が3分、各2回演じました。

ショーが終わった後、お茶のおもてなし。保育士の浅見先生らによると、「園児らがこれほど長い時間、静かに見ていたのは初めて」、「職員も童心にかえて大いに楽しんだ」と喜んでいただけようでした。

はとぼっぽ保育所(定員50人)は、神戸大学病院の敷地内に併設。職員や学生らの子どもが対象です。浅見先生は「卒園式前に、子供達に少しでも多くの思い出を作りたいと考え、ネットで検索、〈わ〉のHPを見つけた」そうです。マジック以外にお願いした木工クラブ、あんだんては活動済み。

KSCマジッククラブの参加資格はカレッジ在校・卒業生で年会費は6,000円。現役学生がOBとして継続するケースが多く、数多あるクラブの中で、連携がうまく行っている方とか。クラブ在籍数は80人程。月2回の例会には、常時50人は参加。神戸市内を中心のボランティア活動は年70、80回。高齢者、障害者施設、病院、幼稚園、保育所、児童館などが中心。(取材・写真=広報 知地正紘、永野知己)



# 上手に使おう

## 介護保険 ③

### 老々介護に頑張る日々

姑が87歳になった2002年から、私達夫婦と一緒に暮らす事になりました。その頃、姑はまだ元気で、自分の洗濯物は毎日の様に洗って楽しみに干しておりました。買い物と食事の用意は、私がしていましたが、時々自分でも買い物に行ったり、近くの内科医院に出かけたり、自分で出来ることは、自分でやろうと努力しておりました。

95歳を過ぎた頃から体力が落ち、家の内外でよく転ぶようになって、怪我の絶え間がありません。テレビは大音量でないと聞こえないし、目も片方の視力が大変悪くなり、視野も狭くなり疲れやすくなっておりました。デイサービスにも慣れ、ショートスティという施設でのお泊りにも行っていました。外出の身支度が自分で出来なくなったので、ヘルパーさんに手伝ってもらっていました。

97歳を過ぎた頃には、月日の認識がおかしくなり、今日が、何月何日の何曜日かが分からない



なくなっておりました。昼間に寝て夜起きて、昼夜逆転し、徐々に認知症も進み、家での生活が難しくなってきましたので、介護施設に入所させて頂きました。

今は98歳ですが、施設の方々のお世話で日々を過ごしております。

姑との長年の同居は、さまざまな出来事やトラブルがあり、精神的にも大変疲れる日々でした。今後も、いろいろな事があると思いますが、姑には安らかな老後を送ってもらえるように頑張ろうと思っています。

今や老々介護の時代です。グループ〈わ〉の皆さまの中にも、親の介護でつらい思いをされている方が多いと思いますが、この連載が参考になれば幸いです。

(堺壽代・音9 西区会)

#### ●相談窓口

介護保険制度	コールセンター ■ 333-3330
保険料・減免制度	各区役所医療係
高齢者の相談	あんしんすこやかセンター
認定を受けたい	えがおの窓口
認定について相談	あんしんすこやかセンター
住宅改修	すまいるネット ■ 222-0005

※ 神戸市介護保険のあらまし参照

### アジア行政官、わなど視察

人口の高齢化と高齢者施策を研修しているフィリピン、タイ、インドネシアなどアジア5か国の保健担当行政官6人が、3月3日午後1時からシルバーカレッジとグループ〈わ〉を視察しました。

2階のLL教室で、カレッジ・糸原マネージャーがしあわせの村内には病院、福祉施設、テニスコートなどが種々そろい、日本でも有数の総合福祉ゾーンであることを説明。シルバーカレッジの英語説明入りのDVDをスクリーンに映して、約20分、概要を説明しました。続いて〈わ〉の国際部会から3人（柳川瀬淳一部会長、土井昭政、鬼村信行さん）が、英文6ページのチラシを用意して待機。鬼村さんが英語で部会が5つ、区会が9つあり、カレッジで学んだことを社会にお返しするボランティア活動をしていると話しました。

参加者との一問一答では「なぜ、〈わ〉の名前なのか」「なぜ57歳入学なのか」「講師料を払うのか」

などの質問が出ました。鬼村さんは「平和の〈わ〉、わかかの〈わ〉、話の〈わ〉からとった。いいネーミングでしょ。講師料は払っているが、我々の方が経験豊富でよく知っている」など、ユーモア交じりに答えていました。このあと、グループ学習合同発表会を覗き、美術工芸の卒業制作展（写真⑥）に見入り、スマートフォンで写真を何枚も撮っていました。



参加者は「カレッジは素晴らしい、有益だ」「学生が生き生きと青春している感じ」と感想を話してくれました。この研修は神戸アジア都市情報センターとWHO神戸センターの主催で、3月2日来日、同6日まで同センター、WHO、神戸市高齢福祉課、介護保険課などのレクチャーを受けます。

（広報・永野知己）

（広報・永野知己）

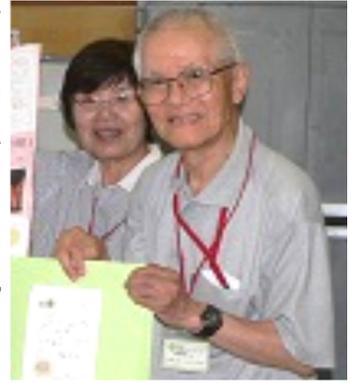
# ボランティアの心

## 東北に届いた神戸の思い

大変うれしいことに、この5年で東北の子どもたちにも、心の復興の兆しが見えてきました。毎年7月の訪問時は、七夕祭りの時期なので、小学校では七夕飾りを作って楽しめます。子どもたちの願い事も、震災直後は「お金が欲しい」「新しいお家がほしい」など読んで胸に迫る内容が多かったのですが、今では「サッカーの選手になりたい」「保育さんになりたい」など夢にあふれた願いに変わり、私たちも心が和みます。別れ際に「また来てね」と見送ってくれる子どもたちの明るい笑顔から、心のケアの取り組みが家庭や地域、学校などで進んでいることを感じました。

心の復興を象徴するもう一つの動きは、名取市で検討されているプランです。神戸・東遊園地にある震災モニュメント「希望の灯」を、やがて建設される名取市復興記念公園に分灯しようという

ものです。実現すれば、大震災をともに経験した神戸市と名取市の友好の絆となり、名取市民の大きな心の拠り所となると思っています。その実現にグループ〈わ〉がお手伝いできればこの上ない喜びです。



第5次東北支援で

東日本大震災の発生と同時に始まったグループ〈わ〉の支援活動が機縁となって、被災地の子どもたちを神戸に招いたり、被災地から講演に来てもらったり、交流が行われるようになりました。募金や被災地支援から始まった〈わ〉のボランティア活動は、保育園・児童館・小学校・自治会を巻き込んで、未曾有の災害を経験した者同士の〈交流の場〉へと流れが大きく変わって来ています。

海野龍英（食16・東北プロジェクト）

## 26年度グループわの活動

【4月】カレッジ入学式（4日）。ぎゅらりーわ66号発行。パソコン講座（通年・人材支援センター）。

【5月】和で遊ぼう（3～6日・水の科学博物館・〈わ〉の4クラブ協力）。わいわいストリート（5日・芝生広場・〈わ〉の4クラブ協力）。学習支援の集い（9日・活動報告）。第10回定期総会（15日・第2期堺執行部スタート）。功労会員表彰式（個人3・団体2）。20周年記念の桜への水やりスタート（30日）

【6月】春の森林浴ウォーキング（2日・再度山、修法が原コース）。地域交流会で区会長が区会の活動状況を紹介。（24～26日）。お買いものサポーター正式スタート

【7月】第5次東北支援チーム10人派遣（2～6日・女川・名取の小学校・児童館・保育所・復興住宅へ）。ぎゅらりーわ67号発行。しあわせの村まつり（26日・芝生広場・〈わ〉の2クラブ協力）。

【8月】夏休み昆虫採集（2～3日・しあわせの村・〈わ〉の2クラブ協力）。しあわせの村夏祭り（5日・〈わ〉の2クラブ協力）。ものづくりイベント（5～17日・水の科学博物館・〈わ〉の12クラブ協力）。バーニング講座（6日・人材支援センター）。夏休み工作塾（10日・村の研修館・〈わ〉の7クラブ協力）。

【9月】ローンボウル大会（6日）。かえっこバザー

ル（7日・カレッジホール・〈わ〉の3クラブ協力）。社協理事長感謝状を〈わ〉の1クラブ受賞（9日）。ペタンク大会（27日・村の球技場）。

【10月】竹の台小で伝統文化体験教室（1日・生け花・着物の着付け・銭太鼓・大正琴）。ぎゅらりーわ68号発行。グラウンドゴルフ大会（16日・しあわせの村）。内閣府より1個人、1クラブが受章（30日）。未来館パネル展示（18日～11月9日・環境未来館）

【11月】神戸環境奨励賞受賞（9日・1クラブ）。未来館ビオトープ観察会（15日・環境未来館）。「防災講座」（18日）。福祉ボランティア大会（18日・4団体による映像での活動紹介と4団体のパフォーマンス）。学習支援講演会（18日）。秋の森林浴ウォーキング（27日・東お多福山コース）

【12月】グループ学習発表会（12/8～2/26順次開催）

【1月】ぎゅらりーわ69号発行。震災支援シンポジウム（16日・カレッジホール）。

【2月】シルバーカレッジ入学願書の受付（2日～12日）。2月8日、今井鎮雄前学長お別れ会（2014年11月3日93歳で死去）

【3月】グループ学習合同発表会（3日）。アジア5カ国行政官視察（3日）。卒業式（20日）。東北支援活動で、県の助成団体「ひょうごの日」から〈わ〉に感謝状（30日）。

# カレッジだより



## カレッジ 服部新学長就任



服部祥子副学長が平成27年2月1日付けで、シルバーカレッジ学長に就任されました。服部新学長は、3月20日の19期生の卒業式に”初のデビュー”。女性らしく柔らかな話しぶりで、しかも筋の通った中身でした。

祝辞で「現代人は効率、豊かさを求めて欲望至上主義の感がある。しかし、人々がともにどう生きるか、よりよく生きるかが大切。ピーター・ドラッカー教授は「変革には100年かかる。その間はボランティアの力が必要」と述べています。ボランティアは、つながり、睦みあい、人に共感し、対価を求めません。諸氏がカレッジで学んだ上質の知恵を生かし、若い人を育てていただきたいと思えます」と語りました。最後に「お元気でね」。

〈経歴〉大阪生まれ、岡山大学医学部卒業、大阪大学医学部精神神経科入局、大阪府立公衆衛生研究所児童精神衛生課長、大阪府立看護大学教授、大阪人間科学大学教授を経て現在 頌栄保育学院院長・頌栄短期大学学長

## 19期生329人が巣立つ

第19期生の卒業式が3月20日、カレッジホールで行われ329人が巣立ちました。服部祥子学長から各コース・専攻の代表者に卒業証書が授与されたあと、来賓の三木孝・神戸市保健福祉局長と在校生代表・井上幹雄（音20）さんの祝辞があり、卒業生代表・友國健司（音文）

さんが謝辞を述べました。このあと、参加者全員で校歌を歌って終了。卒業証書は、各教室で講師から手渡されました。



コース別の卒業生は健康福祉58人、国際交流75人、生活環境60人、美術工芸35人、音楽文化35人、園芸32人、食文化34人でした。卒業生からは、壁掛け時計・ステージ階段手摺・掃除機5台が贈呈されました。

## 22期生の入学式

第22期生404人の入学式が、4月6日午前10時からカレッジホールで行われました。服部祥子学長は、建学の精神「再び学んで他のために」は共生の心を意味しており、全コースで人、自然や芸術などとの共生について学びます。再び学んで、温かい潤いのある社会をつくるために、3年間を主体的に生き生きと過ごしていただきたい。」と激励しました。コース別入学者は健福68、国際90、生環96、美工35、音文40、園芸35、食文40人。新入生代表の堤紀子（音文）さんは「再び学べる喜びでいっぱい



です。みんなで支え合い、人と人の絆を大事にする社会にしたい」と決意を述べました。カレッジには、雨模様の中、9時30分ごろから期待に胸を膨らませて、新入生が続々と登校。ふれあいホールでは、各クラブが紹介パネルの前で、積極的にクラブの入部勧誘をしていました。〈わ〉もパネル展示を行い、サポート募金を募ると共に、駐車場整理や記念写真の撮影を担当しました。

です。みんなで支え合い、人と人の絆を大事にする社会にしたい」と決意を述べました。カレッジには、雨模様の中、9時30分ごろから期待に胸を膨らませて、新入生が続々と登校。ふれあいホールでは、各クラブが紹介パネルの前で、積極的にクラブの入部勧誘をしていました。〈わ〉もパネル展示を行い、サポート募金を募ると共に、駐車場整理や記念写真の撮影を担当しました。

## グループ学習の合同発表会

26年度グループ学習合同発表会が3月3日、カレッジホールで開催され、卒業生や在学学生500人が熱心に聞き入りました。発表は午前10時から、15グループが映像などを使って順次発表しました。ふれあいホールでは美術・工芸専攻の絵画・陶芸作品が展示されました。代表発表テーマは次の通りです。

- 【音文専攻】①和太鼓グループ②パーカッショングループ③合唱（全員）
- 【食文専攻】①松花堂弁当②シニア層の夢が膨らむ食文化
- 【生環コース】①「食農とウォーキング」でエコに②人生の最終章
- 【美工専攻】創る・使う・愛でる陶芸作品創りの楽しみ
- 【健福コース】①健康ウォーキングで心と体の健康づくり②老化を遅らせる事はできるのでは？
- 【国際コース】①ルミナリエの灯り②南京町の歴史的発展③パラオ共和国
- 【園芸専攻】①トマト②ピーマン③メロン

●カレッジ事務局人事 3月31日付【退任】谷澤節子（事務局員）4月1日付【新任】高山美知（事務局員）

## グループ わ 4月～8月のイベント

開催日時・場所	テーマ・内容と協力グループ	連絡先
4月25日(土)、 6月13日(土) 7月4日(土) しあわせの村の里山	カブトムシの生育観察をしてみよう 「命をつけていく大切さ」を学ぶ 協力：花実の森プロジェクト	078-743-8101 グループわ
5月2日～6日 10時～15時 水の科学博物館	春の イベント「和(わ)で遊ぼう」 協力：むかしあそび研究会 うらしまたろう 人形劇ほたる座 野草クラブ KSCマジッククラブ	078-351-4488 神戸市 水の科学博物館
5月5日(火) 10時30分～16時 しあわせの村 芝生広場	わいわいストリート 協力：むかしあそび研究会 うらしまたろう 木エグループ ケナフの会 わ 本部	078-743-8092 こうべ市民福祉 振興協会
6月1日(月)	会員親睦 春の森林浴ウオーキング 道場(鎚射寺・千苺貯水池)	078-743-8101 グループわ
7月25日(土) 15時30分～18時30分 しあわせの村 芝生広場	しあわせの村まつり	078-743-8092 こうべ市民福祉 振興協会
8月1日(土)～8月2日(日) 9時40分～12時40分 13時40分～16時40分 野外活動センター	夏休み「昆虫採集と標本作り」教室	078-743-8092 こうべ市民福祉 振興協会
8月4日(火)～16日(日) 10時～15時 (期間の内 12日間) 神戸市水の科学博物館	夏のイベント「和(わ)で遊ぼう」	078-351-4488 神戸市 水の科学博物館
8月9日(日) 10時～12時 13時～15時 しあわせの村 研修館	夏休み工作塾	078-743-8092 こうべ市民福祉 振興協会

### 新サークル「わらい届け隊」誕生



2月から、文化部会に新グループ「わらい届け隊」(古後健一代表・会員16人)が誕生しました。健福18期グループ学習のメンバーが活動を継続しようと中心になって結成したものです。地域社会に笑いと元気を届けることをめざし、チンドン屋に扮して、腹話術・マジック・歌や踊りなど、介護施設や児童館などでお年寄りや子どもたちと一緒に楽しんでいます。「地域社会に笑いと元気を届けることに関心を持つ人の入会を歓迎します」と古後代表。

### ホームページ 内容充実へ

会員間の情報交換を始め、カレッジ生や神戸市民に、〈わ〉の活動をより広く知っていただくために、タイムリーな「イベント情報」の掲載を進めています。写真を中心にした「イベント記録」、「グループ紹介」や「活動事例」など、広報までお送り下されれば順次掲載いたします。

より充実したホームページを目指していますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

ホームページ検索の方法は、「グループわ」と入力し検索をクリックすれば、画面が表示されます。情報収集などにぜひご利用ください。

(広報・岡本紘一)

# WAからのお知らせ



## 〈わ〉の会員総数1,256人に

グループ〈わ〉の会員数は3月31日現在、137人の新しい仲間を迎え、登録者は計1,256人になりました。新入会員は、昨年より増加。コース別では、福祉36人、国際31人、生環23人、美工5人、音文22人、園芸4人、食文11人、一般5人です。会員総数は、高齢化などによる退会者が増え、60人ほど減少しました。年会費は1人1,500円です。

## 今井前学長のお別れ会

昨年11月3日に、93歳で亡くなった今井鎮雄前学長をしのぶお別れ会が2月8日、神戸市中央区の神戸ポートピアホテルで開かれました。神戸YMCA、神戸市社会福祉協議会、国際ロータリー、シルバーカレッジなど幅広い分野の関係者ら900人が参列し、惜別の献花をささげました。

〈わ〉からは堺理事長、小畑副理事長、飯井冴子さん（前本部事務員）が参列。

今井氏は1993年、シルバーカレッジ学長に就任、以後、21年間にわたって、カレッジ学生らに「再び学んで他のために」の心を説き、ボランティア活動に打ち込むよう励まされました。

シルバーカレッジでは、ふれあいホールの一隅に記帳所を設け、カレッジ職員、学生、〈わ〉会員ら150人が記帳しました。この記帳はお別れ会の当日、ご遺族に渡されました。

●KSC 5月31日に演奏会 混声合唱団コーロKSCは5月31日に第9回定期演奏会を神戸文化ホール・大ホールで開く。開場13時30分、開演14時。入場は無料。阪神淡路大震災20年に寄せて「Requiem Aeternam」、スメタナ作「モルダウ」、「早春賦」など。整理券申し込み方法は、往復ハガキに住所、氏名、電話番号、希望枚数(2枚まで)を記入の上、〒655-0042 垂水区西脇2-3-46-309 三谷裕善宛にお願いします。

●4団体が廃部 カーネーション、神戸グリーンプラの会、クレヨン、絵手紙グループの4部が3月末で廃部となりました。いずれも高齢となり、体調不良などが理由です。

●退会 遊志の会は、神戸市地域人材センター「食育講座」終了に伴い退会となりました。

●71号(7月号)の発行は2015年7月中旬です。

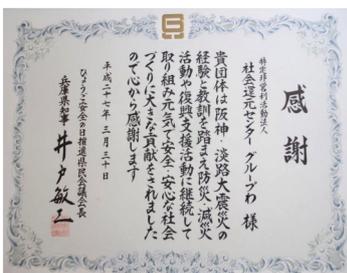
〈わ〉のメルアド=わ本部 group\_wa@wa-net.jp ぎやらりーわ wa\_gallery@wa-net.jp

## 県が〈わ〉に感謝状

グループ〈わ〉の東北支援活動に対し、ひょうご安全の日推進県民会議（会長・井戸知事）から感謝状が授与され、3月30日午後、兵庫県公館で行われた「阪神淡路20年復興フォローアップフォーラム」で贈呈式がありました。対象は団体55団体、個人93人。250人が出席。〈わ〉からは堺理事長・古後理事・海野理事・南形監事が出席、感謝状と副賞の盾を受領しました。

井戸知事が「大震災20年の経験と教訓を活かす活動に貢献された団体・個人の皆さま

まに感謝申し上げる」と挨拶。フォローアップ委員会の室崎益輝氏が「震災の原点に立ち戻り、教訓を正しく伝え、正しく生かすことが求められ



ている」と基調講演で訴えました。その後、阪神・東北の復興に関わってきたフォローアップ委員の室崎・磯部康子・加藤恵正・野崎隆一・松原一郎ら5氏によるパネルディスカッションが行われました。

## 編集後記



★ぎやらりー〈わ〉を担当して2年。企画、編集、取材にと、嵐さながらの日々でしたが、多くのことを学び、また沢山の方々との出会いに恵まれました。この宝物を胸に、次号からフレッシュな19期生にバトンタッチ。引き続き皆さま方のご支援をお願いいたします。（井口久美子）

★KSCマジッククラブの神戸大附属病院の「はとぼっぼ保育所」での活動。園児も保育士も、やんやの喝采。ある職員は「私もマジッククラブに入れないかしら」とつぶやいた。「素人芸」と想像していたのが、とんでもなく上手なのに驚いていた。（永野知己）

★ホームページの内容の見直しがほぼ完了し、現在は、会員の皆様のご活躍を出来るだけ多く掲載することに注力しています。スキルアップに努め、更に判り易いものにし、かつ写真を出来るだけ多くすることを考えていますので、ご協力の程よろしく願います。（岡本紘一）

# ボランティアの今日

ケナフの会



2月14～16日、カレッジ中庭で竹炭・ケナフ炭を3日ばかりで焼きました。寒さ厳しい折りでしたが、前田浩三代表ら7人が参加、出来栄は上々でした。

815本になった花山梅林。3月5日、6年生が卒業の記念植樹。すでに800本が育ち、神戸一の梅林になる日も近いようです。＝徳原尚世撮影



花山梅林会

兵庫区会



「できた。先生、できたよ」と参加者はにっこり。リボン結び（写真右下）がむつかしかったという。3月6日、兵庫区夢野の神戸光有会の福祉施設で開かれた手芸教室。宮城智子代表（音2）、庄司清子（音6）、橋本テル（生8）さんら5人が利用者ら10人と一緒に小物入れを作った。1時間余りで出来上がる。この施設での活動は10年にもなるといふ。（広報：永野知己）

2月25日、ミャンマー支援グループ（北山秀俊代表・写真㊦）が、ヤンゴン盲学校を訪問。英語点字活動支援（今田紘代表）が作成した、8冊の点字翻訳本を贈呈。先生や生徒たちに喜ばれました。（先生や生徒たちとの懇談＝写真㊧）。



ミャンマー支援

シルバーカレッジ関係者の皆さま ご利用をお待ちしています。  
ご予約の際、お申し出下されば特別価格でご提供します。



代表 森下延市(福18期)

お料理 特別価格の一例(飲み放題 税込)

陶板コース	5400円→4400円
大漁桶コース	5400円→4400円
鯛すきコース	5400円→4400円
●お昼の宴会	3500円から(要予約・税込) ご予算に応じます。



阪急・JR三宮から北へ歩3分

## かねも

瀬戸内魚料理

☎331-3911